

第15回市民ふれあいトーク―地域力を活かすまちづくり―

日時 平成22年7月29日 18:30~20:00

場所 福田公民館

要 約

《市長》

みなさま、こんばんは。今日は夕方のお食事時のお忙しい時間に大変多くのおみなさまに関心を持っていただきましてありがとうございます。今日は一時間半ほどの時間でございますけど、ぜひともよろしくお願ひしたいと思ひます。

最初に最近の市の状況、倉敷市の置かれている立場、市の大きな事業について少しお話をさせていただきますと思ひます。

岡山県内では隣の岡山市さんが昨年からは政令指定都市になり、県と同じ立場になりました。人口は70万人で、倉敷市がだいたい48万人ですけど、県内では県と岡山市が同格になりましたので、倉敷市がしっかりしないといけない一番大きな市になったと思ひます。中国地方でも倉敷市より大きい所は岡山市さんと広島市さんと、両方とも政令指定都市ですので、倉敷市は中国地方の市のレベルの中では一番大きなものになりました。倉敷市はちょうど五年前に真備町と船穂町と新たに合併して48万人になりました。

今の財政状況は岡山県は非常に財政状況が苦しく、倉敷市の景気の状態もあまり良くななく、これまでの借金が結構あり苦しいわけですけど、倉敷市くらいの大きさとしては何とかいっている状況だと思ひます。この景気の悪い状況がもう少し続く気もしますが、少しずつ指標もよくなってきていると聞きますので、その間を何とか乗り切っていけばいいという思いを持って、市政の運営を取り組んでいっている所です。

水島の地区では特に、水島サロンを昨年はずいぶん多く耳にされたと思ひます。約10年位前に岡山県と倉敷市で一緒に作ったわけですが、前の用途だけではなかなか成り立たなくなりました。しかし、一年間に1億何千万円の赤字がかかっていたので、そのまま倉敷市が全部引き受けると非常に大変になるので、県の方と去年一年間交渉をして、倉敷市が使いやすいように直してもらってから市の方へ下さるということで、直し賃として約5億円ほど、太陽光発電をつけたり、設備を新しくして使い勝手のいい、市のいい施設として改築をするように取り掛かっている所です。今の倉敷市の取り組みは、今年一年間、館の方はお休みして、地域のおみなさまに来ていただきやすい場所と、水島の地区の中で環境の面にぜひ力を入れていきたいと思ひていました。その拠点になる施設として使っていくと構想を進めている状況です。

水島サロンのすぐ前の通りにある水島商店街ですが、商店街のシャッター通りの問題等大変厳しいものがあると思ひます。ぜひみなさまからのご意見を伺いたいと思ひますけれども、なんとか商店街や地域の魅力を発信してもっと人に来てもらえるような所にならないかと思ひます。

福田地区、古新田地区のすぐ近くの大きな市の施設としてはライフパーク倉敷があります。このライフパーク倉敷は倉敷市内全体の生涯学習の拠点の施設で、この4月から倉敷市内全体の大学の各講座の中でよりすぐりのものをライフパークで市民のおみなさんにも体験していただけるものを作っていくと大学連携講座を始めました。7月号の広報紙にも

随分大きく出ていたと思いますけど、ここに全市内の地域から人にもっと来てもらえるようにしたいと思っています。

もう一つは、福田公園の中で運動をする場所が広くありますが、使い勝手のいい、地域のみなさまに集まっていたきやすい場所にしていければと思っています。倉敷の駅の方では来年の年末にかけてチボリ公園の跡が新たな開発をされることになりました。イトーヨーカドーさんが開発をされることになったわけですけど、中国四国地方でも初めての施設になると思っています。倉敷駅の所だけではなく、倉敷市内の魅力を発信できる場所にしていければと思いますので、ぜひともみなさんにご意見をいただきたいと思っていますので、よろしくお願い致します。

《参加者Aさん》

山陽新聞に水島港が全国5位と出ていましたが、学校教育には活かされているのですか。倉敷にそういう大きな港があるんだったら港や海に関連する学校、例えば倉敷市立短大などで、昔の海技学校のような感じで、水島港があるんだから、水島港を活かせる方法は無いでしょうか。

《市長》

水島港は全国で5位の大変大きな港です。今の民主党さんの政権になりましてから、全国の港での間で競争がたくさん起こっています。この近くでは神戸や大阪の港だったり、非常に大きな港もあるんですけども、その中で国が整理や活用をしっかり進める港と、そこそこで行こうという港と、二つか三つくらいに種類を仕分けするという話を言い出されています。岡山県と一緒に、水島港を国の中でも非常に重要な港の位置づけをしてもらえるように、今一生懸命運動をしています。それに指定されるともっと投資をしてもらえたり、港にもっと船が来て物の流通が活発になるので、そういうことをやっている所ですけども、地域の子どもたちがそれを知っているのかというお話だったと思います。

多分、5位になったことはまだあまり知られず、子どもたちも知らないかもしれないと思いました。小学校の中で地域のことを勉強する社会や地域教育の時間の中でぜひとも先生にもそういう新しい情報を、自分たちが住んでいる所は素晴らしいと言ってもらえるように、よく教育委員会にも言ってみます。それから玉島や児島でもそれぞれに地域ごとの特色をよく勉強してもらえることは、地域の子どもたちが自分の地域に誇りをもってもらえる大きなことだと思います。まさに「地域力を活かすまちづくり」の大きなことだと思いますので、大変いい意見をいただきましてありがとうございました。ライフパークの中でもせっかく水島の地にあるので、何か発信ができればと思いました。

《参加者Bさん》

今度水島に障害者支援センターが開設されるということで、障害者はみんな期待しています。この前の日曜日に京都で、精神障害者の法律撤廃のための全国集会がありまして、全国から170人ほど当事者たちがみんな自腹を切って交通費を出して集まったのですが、それがすごく岡山には関係の深い事柄だったんですが、岡山からの参加者は僕一人で残念でした。その大会のテーマが「地域で共に暮らしたい」でして、これは全国の障害者みんながテーマに掲げていて、人間として当然の権利だと思うんですが、未だにできてない現

実を市長に理解していただいて障害者の、地域で共に暮らしたいという気持ちを知っていただけたらと思います。

《市長》

今度10月に臨鉄の駅の前に支援センターができる予定で、今準備をしております。これまでに玉島、児島のセンターがありますけど、障害のある方、もちろんない方もこれまで地域とのつながり、ふれあう機会が少なかったと思いますので、駅の近くの町の中でできることによって、地域のみなさんや普段あまりふれあう機会が少なかったみなさんにふれあいの場が広がれば良いと思いますし、ぜひとも障害のあるみなさんの方からも発信していただければと思っています。

《参加者Cさん》

先日、テレビで芸科大学のコマーシャルで、学生がどういう勉強をしているのかを非常に詳しくされていました。たまたま倉敷の美観地区で、中国から来られた芸科大学の先生になったばかりの方にお目にかかりました。倉敷のことをよく勉強したいということで、大原美術館と、特に倉敷物語館がどういうことをやっているか教えてくださいと言うので連れて行ってガイドをしたんです。非常に喜んでくださって、その先生は非常に倉敷の地元のことに関心を持っておられました。果たしてわれわれ市民が市長が言われた大学講座にどれだけ関心を持っているのか、自分もどれだけ参加するのかというのを反省したんですけど、市の方も水島のライフパークでやるのをもうちょっと宣伝した方がいいんじゃないかと。同級生の友達20人ほどに会ったんですけど、ほとんど知らないです。こういうことをやるんだったら、一回行ってみたいと、まずは全員連れて行こうと思っています。非常に関心が高いのもっと宣伝をしていただくとか。

それと、前に市長が言われたと思うんですけど、英語では観光ガイドができていますけど、中国語と韓国語のガイドは実際できているんでしょうか。

《市長》

ライフパークの大学連携講座は、この7月号の広報紙の巻頭で4ページくらい大きく宣伝をしたつもりなんですけれども、まだまだ知っている方が少ないと思いました。今回初めてやりまして、もちろん1回だけで終わらせるものでなくて、倉敷市に10個の大学がありまして、岡山県内の半分くらいの数があると思いますが、結構地域がばらばらなんです。水島の方は芸科大学にある程度親しみがあるかもしれないんですけど、せっかく音楽の世界では大変有名な作陽大学があっても、児島の方はあんまり行ったことがないので、もったいないと思っています。ぜひ地域の方がせっかく同じ倉敷市内なので、児島の方も作陽大学の学生さんたちがやるコンサートもありますし、学生たちが小学校の生徒に本物のトランペットを見せたり、弾いたり、そういうふれあいを実際にやってもらえることによって、子どもの関心が高まると思います。まだ連携講座がそこまでっていないんですけど、そういうことが今年だけじゃなくてこれからも年々できればと思っています。一応、今の7月号に載っているものは今年の前半の分ですので、また後半もやりたいと思っていますし、来年度ももちろんやっていきたいと思っています。市内でも一番集まっていたきやすい場所になっていると思うので、このライフパークを基点にして大学のみな

さんに知っていただいて活用してもらえそうな、大学側もそれを大変求めていますので、進むようにしたいと思っています。

外国の方への宣伝ですが、今ホームページやガイドブックを多言語化するとか、何とか少しずつ進めているんですが、ガイドさんで韓国語と中国語のできる方を常時というのはなかなか難しい状況ですが、何か行事がある時にはボランティアで募ってお願いしている状況なんですが、少しずつでも進めるようにと思っています。

《参加者Dさん》

市民ふれあいトーク参加申込書の関心事の欄に、「シャッター通りの活用」、「高齢者の活用」、「水島サロンについて」の3項目を書かせて頂きました。この中で二点、お願いしたいと思います。

シャッター通りの活用に関しましては、本当に水島で育った人間にしてみると今の現状を見た時に非常に寂しい思いをします。ほとんどの所がシャッターが閉まっているのをなんとかできないかと一つの案として、大学がたくさんありますし、学生さんがたくさんおられますので、学生さんにシャッターが閉まっているお店を無料開放でもしてあげてもらえないでしょうか。もちろんいろんな費用がかかりますと思います。ただお店を開けていただくだけで、後は学生さんにお任せしてなんとか若い人に集まってもらえるまちづくりはできないかと。私は「水島の未来を考える会」の役員をしていて市長にも何回かお目にかかって、水島サロンに関してもお願いをしましたが、もう一つ我々の所にも、どう水島サロンが改善されるのか見えておりません。今お聞きしている所だけでは、なんでそこまでの5億円近いお金が必要なのかと思うんです。太陽光発電をつけることや、芝生を全面的に直すこともお聞きしておりますし、環境監視センターのこともお聞きしておりますが、それ以上のことに関してはなぜそんなにお金がかかるのか。県から5億円近いお金が支払われるからそれを使う方向だけを考えているなら、非常に無駄だと思いますし、もっと別な考え方でやっていただけないかという思いです。よろしくお願いします。

《市長》

最初に水島サロンの方からお話を申し上げましたので、お話をしたいと思います。県からの5億円ですけども、もちろん県からもらうといいますが、もともとは県民税から来ていて、われわれ全員のお金だと思いますので、もちろん無駄にしたくないと思っています。

水島サロンは非常に特殊な建物で、建物を見ていただいても中に入ってもらっても分かると思うんですが、建てた時に全国の中でも非常に珍しい建物の位置づけになっていたのではないかと思います。私も改修するにあたって何回も行ったんですけど、どこが一階でどこが二階だか、普通だったら地面の所が1階なんですけど、階段を途中まで上がって入ってから建物の中を移動することになっているので、特に足の悪い方とかは動きづらいと思います。これから倉敷市だけで長く持たせないといけないので、ボイラーを始めとする中の部分をよくしなければいけないと思って、それをまず効率がよく長持ちするものに変えるのにお金がかかります。それと、今でも随分こけたり怪我をされると言われておりますので、石段の部分をかなり取り払っていきたいのと、北側の方がメインの入り口になりますので、地面の所から上られるエレベーターを付けた方がいいと思って今計画を

しています。エレベーターで入ってもらえれば車椅子の方も、足の悪い方も入りやすいし、全部がガラスでできているので、構造上それを切るわけにはいかないのです。これからも今の中二階がメインの入り口にならざるを得ないと思います。ただそこに到達するのにエレベーターを使おうと思ったら裏口の方から入ってずっと回らないといけなないので、皆さんが一番目に付く所からエレベーターで上がって行ってもらえるようにすることが必要だと思っていますので、それにもお金がかかると考えています。

それから太陽光発電はぜひ入れたいのと、芝生の部分の改修をするわけですが、なるべく有効に使って、もし5億円未満で済んだら県の方に返して、倉敷市の施設としてなるべく長く使えるように、中の改修もいたします。使いやすい部屋にしようと思っていますし、もともとは倉敷市の機能を移転する部分は倉敷市の仕事なので倉敷市がお金を出すので別々ですけど、県からもらうお金を有効に使ってやりたいと全般的には思っております。

商店街のお話ですが、私も商店街のことで大変心配をしまして、水島サロンが一つのきっかけになれるような機能を持てればいいと思っています。その北側、商店街の近くの方に向けて人が行っていただきやすい動線にして、歩きやすい所にしたいと思っています。また、商店街の中でここ数年、芸科大の学生さんたちと一緒に地域の商店街の皆さんが空き店舗にお店を出したりとか、少しずつ始まっているんです。ある程度何年かやってみて、もうちょっとうまい仕組みができて大学の方をお願いをして、やる気のある学生が、例えば無料で貸してくださる所があるので、大学の授業や研修の一環で作った物をここで売ったり、展示したりを、今のお祭りのような1日、2日間だけでなく長い期間で、もっとできればいいなと思います。もちろん一番近いので芸科大学がまずできればいいと思います。芸術科学大学なので何か人を惹きつける魅力があると思います。その後、市内に10個大学がありますので、他の大学の方からもそういう参加ができるようになってくれればいいなと思っています。水島の商店街だけではなくて、例えば玉島の商店街でもできればいいなと本当に思っていますので、今日のご意見は大変ありがたいと思いました。

《参加者Eさん》

私は学童保育のワーカーをしているんですけど、6月23日に市の方から放課後子どもふれあい文庫の設置についての書類が届いたんです。その書類を見ますと10万円のお金の図書を買ってくださる話だったので、学校と学童の方やみんな話し合っただけで欲しい本などを決めて欲しいと言われて、私たちは本当にありがたいと思っています。ただ、設置場所が小学校の図書室なんです。私は学童が五福なんですけど、五福は同じ校庭内にある学童保育なので、図書室に行くのも雨に当たらずに行けますけども、学童によっては学校の施設じゃない所にある学童もあると思うんです。そういう所は本を借りたくても大変です。私たちに好きなものを選ぶようにと言われて、極端な話5万円ずつといろんな本を選んでも、実際の所は活用できないんです。図書館を使えるのは4時までで、私たちの仕事は4時といたら一番のピークで忙しい時間帯なので図書室を利用することがなかなか不可能です。ですから、同じふれあい文庫を考えてくださるなら、私たちの選んだ本がもっと子どもたちに活用できる方向でしていただいて、学校に置くのではなくて、学童で選んだものは学童でも保管させてもらえたら、どんだん子どもたちに見せたり活用できるんですけど、せっかく市の方が素晴らしいことを考えてくださっても、実際の機能として活用されなかつ

たら意味がないので、お願いしたいと思います。

もう一点は、いろいろな地域に学童はあるんですけど、立ち上がったからの年数も大きさも成り立ちもぜんぜん違います。五福は小規模ですけど、多い所でしたら140名ほどいます。一律にいろんなことを決められないと思うんですけど、非常に一生懸命なってくれる運営委員さんで学童は成り立っています。私たちワーカーは有償で給料が発生しているんですが、運営委員さんは今の段階ですとボランティアで無償でしていただいています。市の方がある程度のガイドラインで運営委員さんに対してはこうだと決まっていれば、運営委員さんをお願いしやすいんですけど、運営委員といっても保護者が運営委員の所がありますし、うちは元PTA会長さんがされていて、そこそこで違うので、一律にはできないんですけど、もう少し市の方でガイドラインを作っていただけると私たちも動きやすいと思います。よろしくをお願いします。

《市長》

放課後子どもふれあい文庫の件の10万円分の本というのは、実は市の方もなかなかお金がないので何か良い施策はないかと、いろいろ国の子育て施策をいろいろ探しまして、ちょうど使い勝手がよさそうで、備品の中でも本が少ないとかもっとあればいいと伺っていたので、そういうものを買えそうな補助金をとってきたものです。各学校にだいたい10万円分を買う制度ができたところとちょうど通知を差上げた所です。

私も10万円分の本を各学校に買ってもらう仕組みを作る所までは聞いてたんですけど、それは学校の図書館の方に置かれるということでしたよね。多分国からの補助金の関係で図書館に置く仕組みのことだとは思いますが、確かに学校の子供が読むのと、せっかくだから学童の子供もたちに夕方は使ってもらった方が良くないと思いました。

そういう実態を教えてください、本をある程度期間を決めて交換したり、学童に置いて使ったりできたらと思ったんですが、教育委員会と何か良い方法はないのか、必ず常時図書館だけに置いておかないといけないのか、どこまでできるのか検討してみたいと思います。

学童保育の運営委員さんのことは、学童保育の仕組みから言いますと学童保育自体は地域の運営委員の運営委員さんで運営していただいて、それに対して敷地の中で建物が必要な場合は、市が補助を出すことになっていまして、運営自体は学童のみなさんにさせていただかなければならないことになっています。なので運営委員さんに対してお給料の形で出すのは制度として難しいと受け止めているんですけど、確かに運営委員の人はボランティアで働いているので言いにくいという声はよく伺いますので、その辺りがもう一回どうなっているのか、学童保育を担当している部局にこういう意見があったのでみんなどう言っているのか、自分の頭の中に入れて制度自体見直しができる部分は今後やっていければと思います。今の時点ではまだできそうかどうかは申し上げにくい状況です。

《参加者Fさん》

町内会とは地域の自主団体とか親睦団体であって、思想信条を超えた自治組織だと思うんですが、住民の高齢化とか共働き、公共サービスという考え方から参加しないとか脱会者が多いので資金的にも人材的にも非常に困っております。市にも何回か相談に行きましたが、町内会までは把握しきれてないというのでなかなか難しい面があります。もち

ろん市にもいろんな補助や支援もしていただいているありがたいとは思いますが、ソフト面についてガイドラインを作っただけでないかと。個人情報やいろんな会の会則のガイドラインがあれば非常にやりやすいかと。会長の任期や個人情報一つをとっても慶弔を出そうとしても名前を出すなどというので、個人情報保護法を誤解していると言いたいですけど。役員もいつまでもボランティアというわけにはいかないのでは有償の形を取ればいいですけど、金銭面の問題がありますので、そういうことを指導していただければいいなど。財政面では広報紙や調査や選挙とか有償のものは、町内会を通してやっていただければ良いと思います。おいしい所はどっかが持って逃げるやり方なので困っています。

もう一つは行政関係者はたくさんらっしゃるのですが、地域のことになるとなかなか参加してくれない。市長を先頭に「もっと地域に参加を」と言って、優秀なOBがたくさんいらっしゃるんだけど、地域のことになるとなかなか参加してくれないので。

二点目は、福田の運動公園の整備ということで、去年立派なウォーキングコースを各愛育委員会で作っていただいて、何回か歩いたんですが、どうしても交通の関係から福田公園を歩く人の方が多いですね。そういうことから、(福田の運動公園を)整備して行って、年寄りが「天気よし・気分よし、連(友)が集まる 医者にいこ」ではなく、公園に行って体を作るということで、保健士にもそういうところの指導をしていただければと思います。同時に公園の中で段差をなくしたり、ドッグランではないですが、チャイルドランやファミリーランみたいな広場があってグレイゾーンの高齢者が来てもゆったりできる形にすれば保険料に貢献すると思います。そういう作業はボランティアで年寄りがいっぱいいるので、ウォーキングコースを整備しようと声を掛ければ出て行きたいと思います。

最後に商店街のシャッター通りの件で、深山公園の道の駅、ファーマーズの店は地産地消の青空市として非常に流行っています。なぜかという、やっぱり広い駐車場があること、毎日開くことから行政の指導があって、倉敷市の人が多く来てくれていると聞く、ああいうのをどこか広い場所を利用・確保して青空市で、この地域は牛蒡やレンコンという品物があるわけです。それに魚を下津井から持ってきて、昔は呼松が有名だったんですけど商店街とタイアップして毎日やれば非常に地域が開ける気がしますので、場所の提供、支援をお願いできれば活性化できる気がいたします。地域の元気が出ればみんな幸せになると思います。以上3点を提案します。

《市長》

まず町内会についてご質問を頂きました。町内会は住んでいる地域の中では大変大切な組織で、一番小さい単位のもつまりだと思います。今の所、市が活動の面で支援できているのが、その上の大きさの小学校区単位のコミュニティ協議会です。町内会となると大変多くの数になりますので、コミュニティ協議会に対して市がこういう活動をやっていただける場合にはこういう補助があると申し上げているんですが、さっきおっしゃっていただいたガイドラインは、町内会が活動する時になかなか役をやっていただくのが難しく、問題点が個人情報や、一回やったら何年もやらなければならないのは確かにそうだと思うわけですが、他の市の中でも町内会の規約のモデルや例示的なものを作って示すことはあると思ったので調べてみたいと思います。ただ実際に採用して自分の町内はこういう規約で行こうと決めるのは町内のみなさんになると思うので、お手伝いできればと思いました。規約を作るだけでも大変なので、そこからやるのが嫌だというのはもったいないので、

参考になるものがないか他の市の例も調べてみたいと思いました。

ウォーキングコースや高齢者のみなさんたちがもっと歩きやすいものということで昨年度取り組みましたが、地域の愛育委員のみなさんたちにも大変ご尽力をいただいてウォーキングマップを、今作っていただいているのですが、今年も進めていきたいと思っています。地域のみなさんたちにもご協力をいただいて使っていただきやすい公園や地域の場所を引き続き作っていききたいと思います。

3つ目は先日、福田地区の生姜を食べているニュースを見られた方がいらっしゃるかもしれないですが、JA倉敷かさや農協からこれまで連島の牛蒡とレンコンの宣伝をよく頼まれていたんですが、福田の生姜も宣伝もしてくれと言われてまして、先日NHKの夕方のニュースで生姜をすりおろして冷奴にして食べたり、生姜の佃煮、生姜のケーキをJA倉敷かさやの女性部隊の方々がせっかくの地域の産物を使って作ろうということで大変おいしかったんですけど、私がびっくりしたのがここ福田の生姜は、もともとの品質は高知のものと一緒に伺ったんですが、私が高知に行ったときに見た生姜より福田の生姜のほうが大きくて丸くて食べてみたら美味しいんです。それをテレビで言いましたし、今度はしっかり宣伝したいと思います。

この日曜日に神戸に行きまして、玉島の桃と船穂のマスカットと、今回は連島の牛蒡の宣伝をしてきたんですけど、来年あたりは福田の生姜を宣伝したいと思います。私は生姜が好きなんですけど、スーパーで売っている生姜に高知のブランドの名前が書いていたので、高知のものが結構多いのかと思っていましたら、JAかさやさんから聞いてよっぽど高知より倉敷市の福田の生姜の方が品質も良いし、大きいし味も良いということです。高知の生姜はわりとすらっとしているんですけど、福田の生姜は、ぷりっとしているのが非常に大きな発見でございましたし、これから倉敷の農産物を宣伝する時に大変重要な一つだと思いました。

それから朝市は、すぐに始めるのは難しいとは思いますが、商店街とタイアップしてと言われましたよね。例えば、年に一回秋に倉敷全体の農業祭りをやっていて、大変賑わっているんですけど、その時にどこまでできるかわかりませんが、水島の商店街の方からも参加をしてもらえるように呼びかけてみて、農業祭りではお魚も地域の商店街の方からも何か出していただいて商店街の方にも目が行ってもらえるようにしたらいいかなと、非常にいいアイデアだと思いました。ありがとうございました。

《参加者Gさん》

毎日ライフパークのトレーニングルームを使わせていただいておりますが、今のサロンが無くなって使いにくいですが、一生懸命やってもらっているので辛抱しようと思っています。いききふれあいで水島支所の保健婦さんに指導してもらって30人くらい毎日歩いているんですが、男性が少なく、もうちょっと参加者が増えればいいです。申込はいつ来ても誰でも受け付けます。知ったのは、愛育委員さんの方から宣伝があって、僕らたまたまライフパークの前で会って、入れてもらったんです。だいたい常時男性が6人くらいで女性があとの25～26人くらいです。一月に一回定期的にウォークを、亀島山くらいまでは上にあがります。そして宣伝は各自でします。市のホームページからは非常に入りにくいんです。見たら水島支所は未だアドレスが無い所があります。

《市長》

特に今言われたように、健康の面で歩いたり、みんなで活動したりするのはこれからも非常に進めていきたい分野なんです。以前は参加者が少なくてこじんまりだったかもしれませんが、見られて参加したいと思っている方が増えてきていると思うので、ホームページに載せるにしてもわかりやすい場所に載せる工夫をして、もっと宣伝をしていきたいと思います。ライフパークの分だけでなく全般的に市役所のホームページの中でも健康に関するものは目立つようにしたらいいと思いました。

《参加者Hさん》

先ほど福田公園の話しがでしたが、私も体力づくりで朝晩のどちらかに歩いているんですけど、公園の中で犬を散歩させている方が非常に多く、後始末をしてない方がいらっしゃって非常に不愉快に感じます。それと犬の嫌いなご近所の方もあそこを歩くようになるので、なんとか処置をしていただけないかと。私は深山公園へも週2回ほど行くんです。あそこは犬は入れないと書いていて誰も入ってないです。あの決まりは素晴らしいと思いますし、利用する人もちゃんと認識していますから。

《市長》

深山公園は犬は禁止なんですか。

《参加者Hさん》

禁止です。その代わり入り口でちゃんと犬を遊ばせるコーナーがあるんです。だから日曜日は随分利用されて、運動をさせておられます。後始末もちゃんとされているんです。落ち葉の下にスコップを持って来て入れている方も見るので、たまにはちゃんとしてる方もおられますけど、植木の方へ行かれて平気でしてる所を見ても、われわれはちょっと言にくいです。なんとかして市が厳しい処置をしていただければありがたいです。

それと深山公園といろんなお店の野菜のコーナーをおっしゃられましたね。確かにあれは良いと思います。主婦にとっては、新鮮な野菜が格安で手に入りますから週2回ほどは行って利用していますので、できたらなんとかして犬の利用方法をお願いします。みんなが快適に体力づくり、散歩をさせていただければありがたいと思いますので。

《市長》

散歩は何時ごろされている方が一番多いんでしょうか。

《参加者Hさん》

朝早い人は今だったら5時ごろから、私は夕方にかけて行っています。夜行くと犬が随分散歩されていると聞きました。犬の嫌いな人は犬が側に来るとものすごく不愉快な感じを与えられるそうです。

もう一つ、2、3日前にお話したんですけど、ある人が運動公園の仕事をしたいと思ってあそこにいらっしゃる方に聞いたら、その説明は「あそこの場所を提供した人しかここでは働けない」と言われたらしいです。でもあそこはできてからもう何十年にもなるのをいつまでもその人たちがばかりというのは、県民税も払っていますし、やはりみんなに開

放して欲しいと。その方は「ここで働きたいんですけど、どのような手続きをしたらいいですか」と聞いたらそのような説明をされたとおっしゃっておられました。

《市長》

いろいろ教えていただきましてありがとうございます。犬の問題は各公園でやっぱり大きな問題で、飼い主の方のマナーが大きな課題になっています。深山公園はその辺りはうまくいっているわけですね。公園の監督部門の人に深山公園がなぜうまくいっているのか研究してもらおうようにまず言ってみます。玉野の市役所にも聞いて、最初から禁止だったかも分りませんが、どういう経過を経てきたのか参考になる部分もあると思います。立て看板を立てているんですが、それだけじゃなかなかできないので、ご迷惑がかかっていて申し訳ないと思うんですけど、少しずつでも改善を頑張りたいと思います。本当にみなさんに使っていただきやすい公園にしていきたいと思います。

《参加者 I さん》

今、地域の中でいろんな公共施設等があり、会社に多くの方が車で通勤されていると思うんです。地球の温暖化とか省資源とかいろいろなことを唱えられている中で、水島の地域の中で公共交通機関が非常に少ないのが一点。企業に入っていった臨海鉄道、貨物もなくなってきていると思うんですけど、できれば 1 キロ以内に駅があって企業に通うとか、工場地帯に歩いて行ける間隔の公共交通機関の駐車場とかバスとか、整備していただければ散歩間隔で市の施設やいろんな所にどんどん顔を出して行ける。そういう中で地球温暖化対策になるとか健康にもいいとかいろいろなことができると思います。特に高齢になってくると誰かの支えがないと目的地に行けないということがあります。ここから児島とか水島地区の有数企業を通るようになれば、どんどん車社会からそういう社会に変わって行けると思います。そういうところの整備であるとか地球温暖化と地域活性化できるようなことを市の方で考えられたことがありますか。

《市長》

公共交通機関で特にバスの面の採算が取れなくなって便がなくなり、市内全域で大きな幹線しか残ってこないような状況になっているのは大きな課題だと思います。市としては、両備バスさんや下電バスさんに公共バスへの補助金を出して何とかやめないでもらいたいと存続しているのが現状です。それでも補助金をもらってもできないと止められる路線がだんだん出てきている現状で、倉敷市内だけでなく全国どこでもそうなっています。国の施策で高速道路の無料化や千円にされているのが、バス会社からすれば全部無料にするともますます会社自体の経営が圧迫されて地元の足になっている部分にも影響が出てくるので、非常に困ったと最近によく言われます。倉敷市内も非常にバスの便数が前に比べて少なくなってきてまして、今、菅生団地や西坂台とかの団地で、バスが無くなり倉敷駅の方に出ていくのに毎回タクシーを頼むのがなかなか難しい地域では、地域の中で乗り合いタクシーの制度を作っています。これにはバスの変形で市も補助金を出せるんですけど、地域でタクシー会社と契約をして、定期的に駅の方に行ってまた帰るというある程度採算が取れる仕組みを作っていただければ市が補助金を出すというのを、いくつかの地域で始めて行っている所です。バス路線の復活するいい方法がすぐあるかと言うとなかなか難し

いのが現状ですが、一つ望みをかけていますのは、今、国会で国として公共交通に責任を持ちましょうという交通基本法の審議がなされています。これまで以上に公共交通機関を補助する仕組みを作るということで、どこまで国がして、県はそこでこういう役割をし、市はこういう役割をするというようになればいいと思っていますし、これができてもっと公共全体として取り組みが進む方向に行けばいいと思っていますが、まだそこまではっていないんです。なので、乗り合いタクシーができないだろうかと思っています。

それから水島臨海鉄道は水島の地域ではとても重要な交通機関ですが、もっと活用していただけるように、宣伝はもちろんしないといけないんですけど、例えば、もし路線を延ばすことができればコンビナートの企業さんの近くまで行って通っていただければいいんですが、まだ今申し上げたような現状であります。

《参加者Jさん》

地域力ということでお話をお聞きしたいと思ひまして、よい地域力を作るということで問題が起こった時に受け付ける所と処理をしていただく所を設けていただきたいことと、問題が起こる前に新しい年度になったら一回くらいは地域の役員の方々を集めて講習会を開いて、その上で問題を起こさないようにしていただく。そういうことをお願いします。具体的に言いますと、工事をしまして、それについて私が聞きますと、「やったもん勝ちだ」という役員の方がいらっしゃるので、市役所の方に言いましたが、遅々として進まないの、そういう部署があれば話がスムーズに行くと思います。

《市長》

いろんな問題・課題があると思います。それで行政の方で全部問題が解決できるものでもないと思いますけど、いろんな解決をしていただく段階やケースがあると思うんです。町内で解決できる問題なのか、工事のように公共が関係あるものなのか、もちろん民間の工事をされていても、それが工事の規定に違反してるものであれば市の方に言っていただければ市の方からこういう違反をしますとか、苦情が来ますと指導をすることができると思うんですけども、なかなか具体的な個別の問題によってちょっと違うと思うんですけど、地域の中での相談という面ではもちろん町内会、小学校区のコミュニティ協議会や、一番身近な所で言えば民生委員さんとかその地域に始めて来られたり、なかなかこれまで地域活動に参加して来られなかった場合には地域の委員さんにご相談をまずしていただいて、委員さんから問題が非常に難しい場合には行政の方に相談をかけてくださるので、そういうルートがあると一番いいと思いますけどどうでしょうか。

《参加者Jさん》

それで行政の方に言ったんですけど、地域全体でいい人がいればいいんですが、「やったもん勝ちだ」と言うような者の意見が通るわけです。それを市役所に言ってもなかなか通らないのでどこか監督・指示できる所が欲しいと思うんです。

《市長》

また後ほどお話を具体的に教えていただいてもいいですか。

《参加者Kさん》

昨日の朝日新聞の天声人語を読みましたが、1979年の小学生の1日平均の歩数の調査が2万8千歩、歩いているんです。2007年のデータですと、1万3千歩と半分以下です。今の子どもは本当にしらけていると思うんです。朝こっちが挨拶しても挨拶しないし、どうなってるのかと思います。そこでいろいろ提案ですが、問題がいろいろあって、具体的にどうするかはなかなか難しいと思います。こういう今の社会の雰囲気ですが、そうでない町があるんです。これは松本の隣にある長野県の安曇野市です。これは昔の南安曇郡で穂高町や豊科町が合併して新しくできた市です。どこが違うかというと、子どもが子どもランドセルを背負いながら学校の登下校の時に走って行っています。これはぼくらの子どもの頃と同じだと思います。「こんにちは」「おはようございます」と皆挨拶をして下校の時はひとり、ふたりで帰るんです。市民全体にそういう意識が非常にあります。町が非常にすっきりしていて平然としていて、道路には花も植えているし、各個人の庭も非常に綺麗です。いわゆるプライドが根付いているんです。こういう昔の爽やかな状態にならないものか。

一つのヒントになる、お金をあまり使わない何かがないかと、僕の子どもの頃のことを考えてみたら、夏休みの朝のラジオ体操があります。首に札をぶら下げて朝5時半か6時に行き町内会長さんに判を押してもらおうのが楽しみで行くわけです。子どもや年寄りや地域のひととの親睦もあります。そこで提案ですが、NHKを利用して全国規模でテレビで放映してもらおう企画を考えたいです。場所は吉備の五重の塔の東側の広い芝生の広場でテレビで有名な体操の先生とアシスタントの学生さんを何人か呼んでテレビ放映をして、倉敷がこんなことをやりましたというのが一つの基点になればと。信州安曇野に行きますと子どもの目の色と態度、地域のお年寄りもぜんぜん違います。倉敷もそういうまちになって欲しいです。

《市長》

すぐにNHKで取りあげてもらえるかはわからないんですけど、情報発信の面もありますので、市のいい所がラジオ体操になるかは分かりませんが、市のいい所を取り上げてもらえるように、努力してNHKの方への売込みをしっかりとやりたいと思います。

《参加者Lさん》

冒頭に市長がお話された最後にチボリ跡にイトーヨーカドーができるというお話でした。すでに市としては倉敷駅の高架の構想があるようです。チボリを作る時には市長の選挙が壮絶で、結果的には作る市長派が勝ちました。岡山には蹴られて県知事は倉敷市長に持ち込み、倉敷市は応諾しました。その結果散々たるありさまでした。責任を取る人はだれもおりません。一銭も返そうとする議員も市長も知事もおりませんでした。今回伊東市長がこの周辺整備も含めて1千億もかかる事業を行うと、その結果責任を誰が取るのか心配です。市長にはその責任を取っていただく覚悟でやっていただきたい。しかし、効果のない高架事業はやっていただきたくない。以上です。

《市長》

今のは鉄道高架の話ですね。チボリ公園の跡についてはチボリ公園は半分公共のような

事業だったんですけど、今度は新しくはクラボウさんが土地を貸して行う事業ということで、民間の事業になりますので、公共の関与という面では市の情報発信の面になるかと思っています。鉄道高架については今の所、金額としてはこれまでの見積もりでは500億とも600億とも言われております。もちろん一年で払うわけではなくて、何十年かで払う事業なんですけど、これは人によって、もちろん市民のみなさまの意見をよく聞いてやる事業になると思うんですが、現状では多分、今言われたような金額はかからない状況になってくるとは思っています。倉敷駅は人口50万人になろうとする市の中心的な駅としては今のままでは駅の北と南の流通を始め、非常に課題があると思っているのが今の市の考えです。今言われましたようにお金の無駄遣いをするなということが一番だと思いますので、市民のみなさんの意見を伺いながら、事業については行っていく手順になるかと思っています。もちろんしっかりと市民のみなさまに説明をしてから事業が行われることになろうかと思っていますので、貴重なご意見どうもありがとうございました。

それでは大変長時間にわたりましてありがとうございました。